CLOSE UP

看護部長
荒木（あらき） 美弥子（みやこ）

看護部

看護部長　挨拶

昭和37年に看護課として独立してから約50年が経過しました。平成元年に看護部となり、現在では院内職員の約7割を占める700名強の職員を有しています。今年度「チーム医療の促進･退院支援の強化による患者が望む療養生活の実現」を看護部目標の戦略テーマとして、全看護職員一丸となって取り組んでいます。他職種との連携･協働はもちろんのこと、看護師だからこそ実践できる看護の専門性を十分に発揮できるよう、システムを構築し実践を重ねてきています。私たちは、看護部理念にあるように、知識に裏付けられた適確な判断と質の高い看護実践を通して心の通う看護を提供する事を目指しています。患者さんを中心にして地域の皆様との連携を推進し、協働しながらチームとして患者さんを支えていきたいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

看護部理念

私たちは「科学する眼」と「確かな技術」で心の通う看護を提供します

教育理念

すべての患者さん家族に対して、「これまでの生活とその背景」を尊重し、社会が求める医療･看護水準に応じた看護が提供できる豊かな人間性と、看護の専門的能力の高い自律した看護職員を育成する。

上記の教育理念のもと、新採用看護職員臨床研修をはじめ、チーフリーダー研修･臨床指導者研修･看護管理者研修など年間約25の研修を実施しています。また、勤務終了後の自由な学習の機会としてキャリアアップセミナーを開催し、受講者には「受講証」を発行しています。その他講演会も年間5回程度開催。院外の方にも、研修やセミナーを一部公開しておりますので是非ご活用ください。

平成24年度の取組み紹介

★復職支援

昨年度より、育児休業中の職員に育児をしながら復職準備ができるように情報紙「お元気ですか 通信」を年2回郵送しています。看護部トピックス、保育園情報などを掲載し、職場とのつながりを感じてもらっています。

また、潜在看護職への復職支援として、さっぽろ雇用創造協議会主催の「看護職復職支援講習会」の実習を受け入れています。

★災害対策

看護職員全員が災害に対する意識を高め、災害発生時に適切な初動行動が取れることを目指し、今年度部署における災害シミュレーション実施に積極的に取組んでいます。

病床中央管理による病床の効率運用

病床稼働率向上と患者満足度の向上のため限りある病床を有効活用できるように調整を行っています。統括するのは、看護部業務担当部長です。毎朝、9時30分に全看護担当課長･病棟と外来の看護師長参加のもと、病床ミーティングを行います。部署の空床状況や救命救急センター･精神医療センターの搬入状況を報告した後調整を図り、いつでも患者さんを受け入れられるように努力しています。

委員会活動

看護部長の諮問機関として、研修委員会をはじめとする10の委員会を設置し、看護部理念の具現化を目指し日々活動を行っております。看護倫理委員会では、看護研究倫理審査、看護倫理コンサルテーションを実施。看護業務委員会では、継続した看護職員の職務満足調査や業務改善を実施。キャリアラダー開発委員会では、クリニカルラダー評価表の改訂を行っています。退院支援推進委員会では、今年度の看護部目標と連動し、計画的な退院支援の実施や退院支援に必要なアセスメントができる人材育成、退院前訪問の運用への取組みなど、積極的に行っています。看護連携を強化し、患者さんが地域の中で安心して療養生活が継続できるよう、看護部として取り組んでおります。

認定看護師（11領域13名）

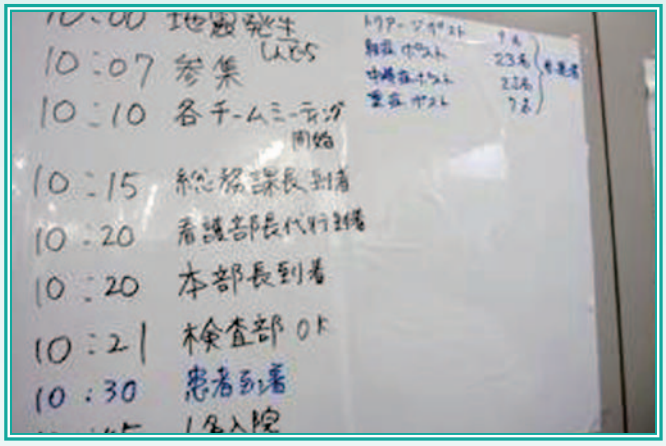
認定看護師は、11領域13名が院内外で活動を行っております。CN看護実践サポート委員会が主催する「CNセミナー」は年4回公開しており、今年度第4回CNセミナーは、平成25年2月15日17:45～当院講堂にて行います。テーマ「慢性腎臓病に対する療養指導～糖尿病腎症を中心に透析導入期まで～」です。テーマに関する事前質問も受け付けております。地域連携センターまたはHPより質問･参加の申し込みをお願いします。

災害訓練

救急看護認定看護師　源本（みなもと）　尚美（なおみ）

当院は、災害拠点病院に指定されています。災害拠点病院とは、災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うために高度の診療機能を有する医療機関で次のような機能を備えた病院です。（平成23年7月現在、全国で618 病院が指定されています）

1. 24時間緊急対応し、災害発生時に被災地内の傷病者等の受け入れおよび搬出を行うことが可能な体制を有する。
2. 災害発生時に被災地からの傷病者の受け入れ拠点になる。
3. 災害派遣医療チーム(DMAT)を保有し、その派遣体制がある。
4. 救命救急センターもしくは第二次救急医療機関である。
5. 地域の第二次救急医療機関とともに定期的な訓練を実施し、災害時に地域の医療機関への支援を行う体制を整えている。



ライティングシートでの情報管理
ホワイトボードと用途は同じだがロール状となっているため持ち運びに便利。消さずに保管もできるので情報の共有だけではなく事後検証にも有効

正面玄関でのトリアージ

当院では、平成22年度より災害訓練を実施しています。今年度は、10月6日に職員約130名に加え市民ボランティア57名に協力していただき、札幌市内で震度5の地震が発生したという想定で訓練を実施しました。災害時は、通常の救急医療と違い治療対象となる傷病者が多くなるため、現有する人的、物的資源を最大限活用しても全ての傷病者に最善の医療が提供できない状況になります。限られた医療資源のもとで、最大多数の傷病者に最善を尽くすことが災害医療の目的です。そのために、傷病者に対してトリアージといわれる治療の優先順位付けが行われます。訓練では、57名の傷病者を正面玄関に設置したトリアージポストで医師、看護師がトリアージした後、各診療ポストでの治療を行いました。災害時は、傷病者の治療を開始する前にCSCA*1を確立することが原則となります。今回の訓練では、情報管理、情報伝達手段に関することや災害対応の原則、災害時の医療に関する知識を持ち中心的役割を担う人材の育成が課題として挙がりました。災害時は、当院だけで対応することは困難であり、周辺医療機関、消防などとの連携も重要となります。将来的には、他機関との連携訓練が実施できるように調整していくことも必要と考えます。

災害は必ず起こるものです。平時にできないことは有事にもできません。有事にいかに対応するかは、日頃の訓練によるところが大きいと言われています。訓練結果をもとに、災害時に多くの傷病者の救命ができるよう災害対策マニュアルの検証や職員の災害対応能力の向上にむけ病院全体で取り組んでいきたいと思います。

*1　CSCA:Command & Control（指揮･連携）Safety（安全確保）Communication（情報伝達）Assessment（分析･評価）の頭文字をとったもの

赤ポストでの診療状況